

# 中国語を第一言語とする日本語学習者のための漢字 読み方指導法開発に向けた基礎研究：中国語知識の 利用をめぐる

薛, 華民

<https://doi.org/10.15017/1398300>

---

出版情報：九州大学, 2013, 博士（比較社会文化）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 薛 華民

論文題名 : 中国語を第一言語とする日本語学習者のための漢字読み方指導法開発に  
向けた基礎研究—中国語(漢字)知識の利用をめぐる

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

中国語をL1とする日本語学習者は非漢字圏の日本語学習者と比較し、漢字学習において母語(漢字)の知識が活用できる反面、中国語の知識が日本語の漢字音学習を阻害する場合もあることが多くの研究により明らかになっている。また、長音や促音など日本語の特殊音声は現代中国語(標準語である「普通話」や多くの方言)には存在しないため、中国語L1学習者にとって、その音声上の知覚が比較的困難であり、習得しにくいことが分かっている。さらに、一つの漢字に複数の読みがあること、即ち漢字の多読性による困難も多くの研究により指摘されている。

このような問題や困難に対し、中国語L1学習者向けの適切な漢字の読み方指導を行わなければならないにもかかわらず、これまでこの問題への対策や指導方法を講じる研究はほとんどなかった。中国の日本語教育現場においても、漢字ないし漢字の読み方学習は相変わらず学習者自身に委ねられ、指導する側から軽視されたままであるため、問題解決に向けた動きが一切見えず、改善の見込みがはっきりしない。こうしたことを背景に、漢字の読みについての体系的な指導が求められている。本研究は先行研究の知見に基づき、中国語L1学習者による漢字の読み方学習の主な問題をめぐり、中国語(漢字)知識の利用に着目し、中国の日本語教育現場で活用できるような指導方法や問題への対策を体系的に立てようと試みるものである。内容は以下の9章から構成されている。

第1章では、本研究の研究背景、研究目的、研究概略および用語の定義を示した。

第2章は本研究の理論的根拠及び研究課題を導くための章である。まず、L2の学習におけるL1の影響を論じた。次に、L2の学習における語彙習得に関する知見を整理し、とくに学習者の心内辞書の構築・アクセスの過程を概観した。さらに、中国語L1学習者による漢字語の音韻処理についてこれまでの知見をまとめ、本研究の扱う漢字の読み方学習に対

する示唆を考えた。最後に、中国語 L1 学習者による漢字の読み方学習の問題を整理し、またこれまで提案されてきた指導法及び残された課題を踏まえ、本研究の研究課題を提示した。

第 3 章では、アンケート調査を通じ中国語 L1 学習者による日本語漢字の同定状況を明らかにした。結果は、学習時間が 1 年以下(初級レベル)の学習者はまだ望ましい水準とは言えないが、学習時間 2 年以上(中級もしくは中上級レベル)の学習者は、ほとんど問題なく同定できていることが確認できた。即ち、中国語 L1 学習者が日本語漢字を見て中国語の知識を想起できるという本研究の前提の成立が確認できた。

第 4 章は、常用漢字表の範囲で、中日音韻対照研究を行い、具体的には中国語の声母と韻母を日本語の頭子音と母音部(子音以外の部分)とそれぞれ比較し、中日音韻対応関係を整理した。結果としては、中国語の発音を手がかりに日本語漢字音の記憶や推測などができるような対応規則を見つけ出すことができた。

第 5 章では、中日音韻対応関係(一部)の簡素化や促音の学習と深い関係を持つ入声字をめぐる、その識別(特定)方法を検討した。中国語の音節要素、形声文字の音符及び漢詩の押韻規則を利用すれば、問題なく入声字を識別(特定)できるという結果を得た。

第 6 章では、長音・短音の問題をめぐる、まず中国語音節の韻母部分と日本語のその「転写」との対応関係に基づいて長音と短音の「境界」(弁別手がかり)を明らかにした。つぎに、中国語の声調知識(第 1 声と第 3 声)を利用し、長音・短音の産出方法を提案した。

第 7 章は、主に複数音の問題を検討した。具体的にいうと、「音読みが複数ある漢字」の読み分けと「音読みと訓読みがともにある漢字」の読み分けに分けて考察を進めた。前者の部分では、漢字の中国語発音、漢字の意味、漢字の語中位置などの手がかりを使って読み分ける方法を考察した。一方、後者の部分では漢字字数、仮名の有無、漢字の意味特徴や漢字の語中位置などから音読みか訓読みかを判断する方法を検討した。

第 8 章では、漢字読み方体系の指導における学習総漢字数の確定の必要性に応じ、中国の日本語教育における漢字の選択状況、日本語教育一般における漢字の選択状況、日本社会の漢字使用状況などを踏まえ、中国語 L1 学習者に適した学習漢字を選出し、読み方の整理を行って漢字表を作成した。

第 9 章では、前述した内容・結果を要約した上で、本研究の結論として漢字読み方指導への提案をまとめた。本研究は中国語 L1 学習者によるすべての漢字読み方学習問題を網羅

的に分析し解決案を提供しようというのではなく、本研究を通じ少しでも中国語 L1 学習者向けの漢字教育に有効な示唆を提示することを目指すものである。さらに具体的な指導方法への応用は今後の課題として提示した。